



**問い合わせ先**

泗水図書館 ☎ 0968 (38) 6866  
 中央公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1672  
 七城公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1580  
 旭志公民館図書室 ☎ 0968 (37) 3111  
 内線 303

**閉館日・閉室日**

泗水図書館 月曜日・月末・祝日  
 中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日  
 七城公民館図書室 日曜日・祝日  
 旭志公民館図書室 日曜日・祝日

菊池市図書館ホームページ <http://www.kikuchi-lib.jp/>



雑誌コーナーには、ファッション・育児・料理・旅など、約90種類をそろえています。バックナンバーは貸し出しができません。(泗水図書館)

**新着・お薦め図書**

**泗水図書館**

気分上々  
 帝の毒薬  
 キマジメ人生相談室  
 新月譚  
 ためない暮らし  
 97歳の幸福論。  
 昆虫の探し方・飼い方大図鑑  
 ガリバーの冒険

著 森 絵都  
 著 永瀬 圭介  
 著 山口 瞳  
 著 貫井 徳郎  
 著 有元 葉子  
 著 笹本 恒子  
 著 藤丸 篤夫  
 著 安野 光雅

**中央公民館図書室**

ごぼう力  
 野球部あるある  
 ねえ、委員長  
 竜の国のミオウ  
 どこいったん

著 南雲 吉則  
 著 菊地 選手  
 著 市川 拓司  
 著 日比 生典成  
 作 ジョン・クラッセン

**七城公民館図書室**

紙の月  
 いきもの図鑑えほん

著 角田 光代  
 著 前田 まゆみ

**旭志公民館図書室**

花をめぐる九州の山歩き  
 絵本・地獄

著 宮本 文雄  
 著 宮 次男

**たどたどしく声に出して読む歎異抄**

伊藤比呂美 著 (出版社 ぴねうま舎)  
 歎異抄正信偲和讀を伊藤比呂美が現代の口語体に訳す。詩人の感性のままに、親鸞の音が東京・下町風の五感とリズムで蘇る。(泗水)



**キャベツ炒めに捧ぐ**

井上荒野 著 (出版社 角川春樹事務所)  
 東京の私鉄沿線の、小さな町の商店街の中に総菜屋「ここ家」がある。そこで働く60代女性3人の人間模様を描いた物語。三者三様の人生があさりフライ、豆ごはん…等美味しい料理とともに語られていく。(七城)



**一年四組の窓から**

あさのあつこ 著 (出版社 光分社)  
 中学一年生の夏に転校することになった井島杏里は、転校した中学校の使われなくなった『1-4』で市居一真と出会う。杏里と出会った一真は彼女に絵のモデルになって欲しいと思いついて始めて…。杏里と一真の友情と成長を描いた青春小説。(中央)



**つづきの図書館**

柏葉幸子 著 (出版社 光分社)  
 絵本を読んでくれた子ども達のつづきが知りたいと、次々と絵本から飛び出してくる主人公達！司書の桃さんは大慌て。田舎の図書館で起こった不思議な出来事。意外な結末とは？(旭志)



**耳より情報**

**リサイクル本を配布します**

7月7日(土)開催の社会を明るくする運動菊池市集会で、図書館(室)で使用できなくなった本や雑誌のバックナンバーをリサイクル本として無料配布します。本を入れる袋などはお持ちください。

なお、当日は中央公民館駐車場の混雑が予想されます。ご迷惑をおかけしますが予めご了承ください。

と き 7月7日(土) 午後1時30分～

※なくなり次第終了

ところ 菊池市文化会館小ホール入り口

**ガーデニング写真募集中!**

泗水図書館では毎年、梅雨の時期にガーデニング写真展を行っています。あなたのお庭・花の写真を展示してみませんか? 展示希望の方は図書館カウンターまで写真をお持ちください。

展示期間 6月1日(金)～6月29日(金) (随時受付)

詳しくは泗水図書館 ☎ 0968 (38) 6866 まで。

※写真は展示終了後に返却します。

(泗水図書館)

**万句の里俳句会 4月例会**  
 一年の昨日の如し花吹雪 稲田 羚子  
 一枝も余さず咲けり糸桜 梅田 昭子  
 揚雲雀鳴いて小さくなるばかり 光本とよいち  
 旅支度桜前線追いかけて 小山 照子  
 春の蝶きびすを返し遠ざかる 田中 美智  
**せせらぎ俳句会 4月例会**  
 我が顔をなでて行きけり花吹雪 村山 数恵  
 葉桜に塗り替へられし並木道 五丁 義昭  
 古民家の古きランプや春灯り 寺本 和子  
 諸葛菜飛び火の如く咲きにけり 藤本 邦治  
 正門で生徒迎ゆる八重桜 渡辺 大寿  
**旭志文芸俳句会 4月詠草**  
 実万両年金ぐらし老いの庭 芹川 蓉子  
 バス停の櫛の大樹芽吹き初む 水谷 ミネ  
 せせらぎの瀬音やさしき春の川 芹川のり子

桜咲く安堵の孫の弾む声 中尾ヨシコ  
**肥後狂句桜会 4月例会**  
 堪りかね 夜中に歯医者起しおる 田中レイ子  
 年中無休 銭の貯まっておこなえん 田尻 浩風  
 しれた事 女性同志でするランチ 高木 房恵  
 春が来た 鏡見る目の変わるとる 高倉 新米  
 もつての外 自分で乗らす救急車 辻 弘喜  
**肥後狂句水笑会 4月例会**  
 春うらら ちかつと遠出してみうか 吉岡 三水  
 春うらら 花に酔ったか千鳥足 続 義昭  
 馬鹿たれが 今年も親の脛かじり 中島 五女  
 一対一 どっちが勝かこら見もん 平井 江彩  
 馬鹿たれが 嫁ごは二人要るて言う 山隈 好茶

生垣に垂れて真白き雪柳ゆらゆらりと風遊ばせる 岩津 涼子  
 ポケットに忍ばせているメモ用紙三日経ても名歌生まれず 岩崎 照代  
 名も知らぬピンクの花が枝幹に咲きみつ裏煙華やぐしばしを 水田紗陽子  
**「里」短歌会 4月詠草**  
 はや一年まだ一年と被災地の何処まで続くその道のりは 宮本 淑子  
 ものなべて芽吹ける昼の庭の辺にわれの心もわずか燃えをり 岡本 トシ  
 狭庭辺を行きつ戻りつする吾をくるみてやさし沈丁花の香 山城 雅子  
 野も山も満つる緑に生氣受け庭の草抜く時を忘れて 梶原美智代  
 ひとにぎり友の持ち来し初蔵今朝の味噌汁ことさら旨し 松本 幾代  
**菊池短歌会 5月詠草**  
 春風の流るる坂に出会ひたり新入生の黄色の帽子 余語やす子  
 菜の花に夕日射しある棚畑セパレートコースを風走り抜く 安藤 則子  
 ドライブの社外苑ほの明り夜桜耀らす千のぼんぼり 岩木 妙子  
 「此処ここ」と呼びとむるがに海棠は観音堂に寄り添ひて耀る 岩永 典子



日除けにと植えしつるバラしらじらと短き盛り風に舞ひゆく  
 梅田 昭子

